

- * 「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。」（Ⅱテモテ3：16）聖書は、神がご自分の意志を表わされたことばの集大成である。聖書の記者が間違わないように「靈感」すなわち神の息によって書かれた。それ故、聖書は「すべて」が間違いのない書物なのである。間違いがないのは、一つはその歴史や科学において、もう一つはその教えや倫理道徳において。あるクリスチャンはある所は正しいが間違っている所もあるという前提で読む人がいる。それは、自分中心の読み方になり、信仰の書としては信頼のおけないものになってしまう。聖書のことばはすべてが神のことばであり、全部が正しい。
- * 私たちが正しいと認めている聖書は、旧約36巻、新約27巻計66巻の聖書のみである。ローマカトリックではこの他に正典として認められなかった「外典（続編）」や「聖伝」（使徒たちから言い伝えられた伝承）にも同じ重みを持たせている。ルターはこれらを認めず、66巻の聖書のみが正しいとした。私たちもその伝統を受け継いでいる。
- * 「聖書のみ」というのは、対ローマ教会、教皇に対して用いられた。各教会にとっての最高権威は聖書だけあるという意味である。ローマ教会、教皇は常に正しいと主張したり、時には彼らの権威を聖書よりも上に置くことがあった。しかし、聖書は神のことばであるので最高の権威を持つものであることを宗教改革者たちは主張した。
- * ルターの功績はその聖書を民衆のものにしたということである。それまで、聖書はほとんどラテン語のものしかなく、聖職者しか接することができなかった。ルターは原語からドイツ語に翻訳することに心血を注ぎ、完成させた。当時普及し始めていた活版印刷技術と相まって、聖書は民衆が直接読むことができるものとなったのである。
- * 「けれどもあなたは、学んで確信したところにとどまっていなさい。あなたは自分が、どの人たちからそれを学んだかを知っており、また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。」（Ⅱテモテ3：14～15）私たちが現在、自国のことばで聖書を読むことができるのは大きな恵みである。その聖書は一貫して、誰でもイエス・キリストを信仰することによって救われていることが書かれている。聖書の部分だけではなく、全体を読む習慣をつけたい。